

食を考える  
安全・安心は財産です。

# 消費者の「おいしい」の一言を頭に浮かべて環境にやさしい野菜を

## 市内に広まる認定農業者とエコファーマー

高齢化や担い手・後継者不足、農産物価格の低迷など、深刻な状況に直面している農業環境。これらを解決するための一つとして、国では地域農業を担う農業者の育成を目指し「認定農業者制度」を実施しています。

この制度は、農業経営基盤強化促進法に基づき、農業者が立案した経営計画を市が認定し、その計画の実現に向けた取り組みを、関係機関や団体が連携して支援していくこととするものです。

現在市内の認定農業者は884人。この人たちが中心となり、農業経営の効率化が進められています。

一方、自然や環境、人に配慮した農業を進める「エコファーマー制度」も実施。これは、有機質の堆肥などを用いた土づくり、化学肥料や農薬の低減による農作物の栽培を行う環境保全型農業に取り組む農業者を支援する制度です。

認定された農業者は、農業機械や施設などの導入時に償還期間の長い資金の借り受け、所得税の税額控除などの特例を受けることができます。

市内で認定を受けているエコファーマーは、平成18年9月現在で1,511人。県内では最多の認定者数で、環境を重視した取り組みが進んでいる地域であることが分かります【図2】。

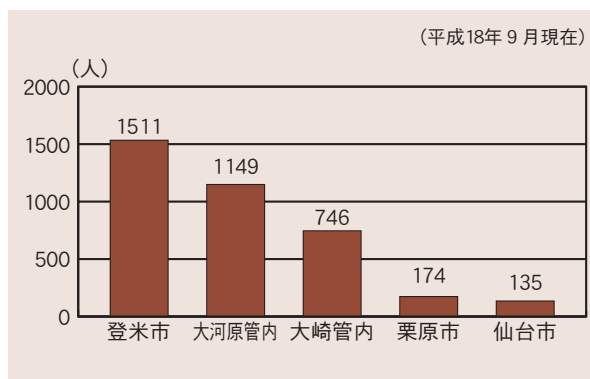
それぞれの農業者が米や野菜、果樹、花きなどの分野で、安全・安心な農産物を生産するために、日々さまざまな努力が重ねられています。

## 環境に配慮した農薬などの使用で良質で新鮮な野菜を

登米市は、キャベツやキュウリの品質が最上級として市場評価が高く県の指定産地となっているほか、ニラやトマト、イチゴなどの園芸作物の生産も盛んなまちです。

野菜づくりに適した肥沃な農地2・1<sup>ha</sup>で、「地中海キャベツ」を栽培するのは、米山町の及川健吉さん

【図2】 県内のエコファーマー認定者数の状況 (平成18年9月現在)



及川 健吉 さん (57歳)  
米山町 齊藤

JAみやぎ登米キャベツ部会長・会員83人。及川さんは、認定農業者とエコファーマーの認定者で、キャベツ作りは18年目のベテランです。キャベツは地中海地方が原産地。地中海キャベツのネーミングは、地中海にややかり名前を付けた、南方町のキャベツ生産組合「地中海クラブ」から取ったものです。農協が合併した現在は、部会で統一して使用

し、ブランド化を進めています。

収穫は春と秋の年2回、合わせて約2万ケースを出荷しています。化学肥料の窒素成分施用量や、農薬使用量を通常栽培の80%以下とするエコファーマーの基準に基づき、肥料は有機質のものだけを使ったり、環境に配慮した農薬の散布回数を制限して使用したりしています。

また、良質で安全なキャベツの生産を目指し、除草剤を一切使わない農法にも積極的に取り組んでいます。秋の収穫は11月が最盛期。奥さんと後継者の息子さんと3人で、キャベツの玉の部分丁寧な包丁で切り取り、大きさの大小によつて6・8・10玉入りの箱に詰め込みます。早朝からの作業によつて一つ一つ大切に収穫された成果品は、JAみやぎ登



秋の収穫時は朝から晩まで大忙し。家族全員で箱詰め作業などを行います



真心込めて育てた地中海キャベツを一つ一つ丁寧に収穫する及川さん

## 全市的なレベルアップで安全・安心への挑戦に挑む

JAみやぎ登米キャベツ部会長も務める及川さんは、個人の品質・技術向上や研究もさることながら、部会全体のレベルアップを目指しています。消費者が求める安全で安心なキャベツ作りには、これまで得た知識や習得した技術、経験を会員相互で話し合ったり、教え合ったりすることが重要だと考えるからです。

また、現在部会に所属する会員83人全体の作付面積は44<sup>ha</sup>。部会では市場評価を高めるために、将来的には百<sup>ha</sup>の作付面積を目標とした作付拡大にも取り組んでいます。

「キャベツは気候などによつて、不作や品質が低下するときもありませんが、消費者の皆さんにおいしく食べてもらうため、今後も低農薬栽培などの環境に配慮した農法を研究・実践していきたい。そして安全で安心な登米市の『地中海キャベツ』を、市内外に広げていければ」。及川さんの「安全・安心」への挑戦は続きます。